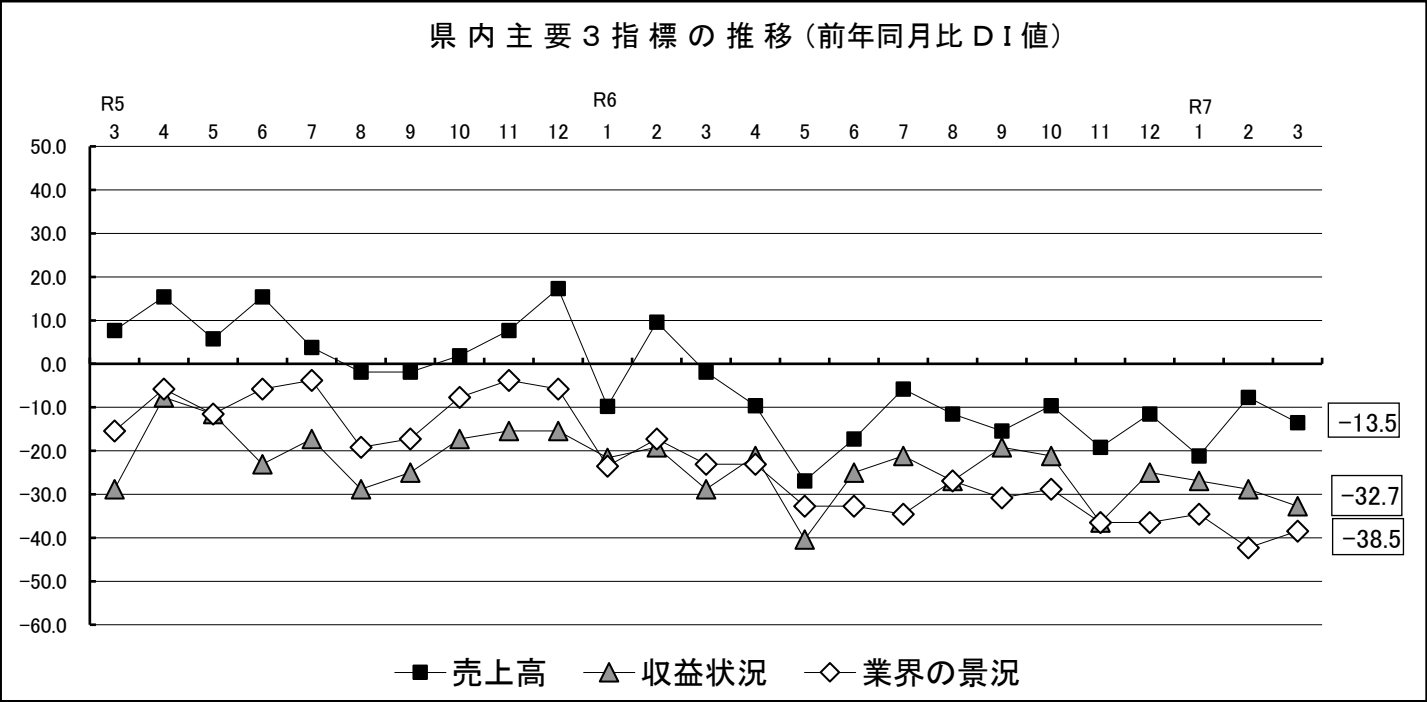


中小企業団体情報連絡員報告結果(令和7年3月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員52名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

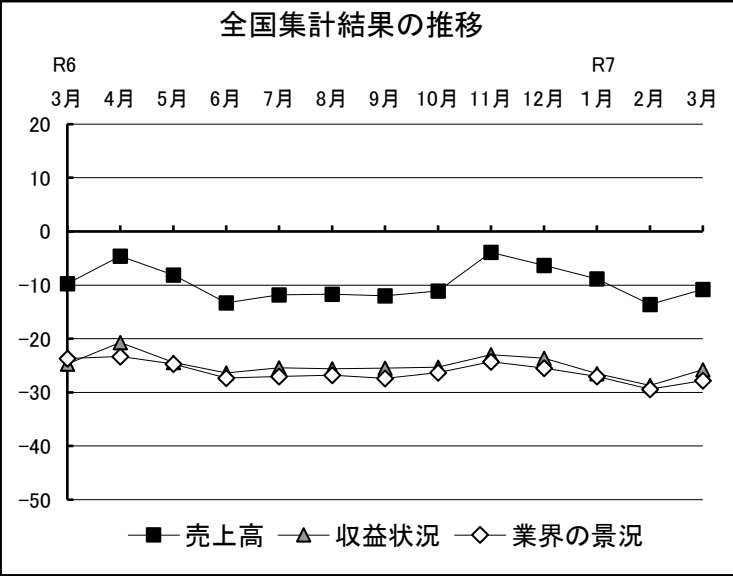
- 3月の前年同月比DI値は、前月と比べて、主要3指標では「業界の景況」で若干の上昇がみられた。一方、「売上高」「収益状況」では低下となった。その他の指標では、「販売価格」「取引条件」の2指標が上昇し、「設備操業度」「雇用人員」の2指標が低下した。
- 原材料費やエネルギー価格の高騰が続く中、価格転嫁が遅れており、企業の収益を圧迫する状況が続いている。消費者の価格感受性も高まっており、多くの業種で全体の景況感は低迷している状況である。



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-13.5	-5.8	-10.8	2.8
収益状況	-32.7	-3.8	-25.8	2.9
業界の景況	-38.5	3.8	-27.8	1.6

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より5.8ポイント低下し-13.5ポイントとなった。全国においては、前月より2.8ポイント上昇し、-10.8ポイントとなった。



収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より3.8ポイント低下し-32.7ポイントとなった。全国においては、前月より2.9ポイント上昇し-25.8ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より3.8ポイント上昇し、-38.5ポイントとなった。全国においては、前月より1.6ポイント上昇し、-27.8ポイントとなった。

-概 況-

3月の前年同月比DI値は図表2のとおり前月と比べ3指標が上昇し4指標が低下した。主要3指標では「売上高」は5.8ポイント低下、「収益状況」は3.8ポイントの低下、「業界の景況」は3.8ポイントの上昇となった。

製造業のうち「木材・木製品」では、4月以降の建築基準法の改正に伴い、建築の確認申請の緩和措置が見直されることから今後着工数減少が見込まれており、今後の景況感の悪化が懸念される。「窯業・土石製品」のうち陶磁器製造業では、3月後半に来客数が増えたことや、4月後半からはイベントが始まるため今後の売れ行きに期待している。自動車関連の製造業では、来月の相互関税に対する警戒感が高まっている。

非製造業では「小売業」は販売価格が上昇しているが、原価の上昇分よりも抑えた値上げのため、収益状況は徐々に悪化している。また「サービス業」のうち給食センターでは米不足が続き、販売価格が上昇している。価格転嫁が値上げのスピードに追いついておらず事業の再構築も検討せざるを得ない状況である。

原材料及び物価等の高騰により経費が増加するも価格転嫁が進まず、多くの業種で厳しい経営が続いている。賃上げの原資確保に苦慮する事業者の声が寄せられており、収益向上策の検討を迫られている。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-25.0	-25.0	25.0	-25.0	-75.0	-25.0	-25.0	0.0	-75.0
繊維・同製品	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
木材・木製品	-75.0	-25.0	-25.0	-25.0	-50.0	0.0	-50.0	-25.0	-75.0
印刷	-100.0	0.0	100.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
窯業・土石	25.0	25.0	50.0	-25.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	25.0
鉄鋼・金属	-50.0	0.0	25.0	0.0	-50.0	-25.0	-25.0	0.0	-50.0
一般機器	0.0	50.0	25.0	-25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	-50.0
製造業	-16.0	4.0	28.0	-16.0	-32.0	-8.0	-16.0	-12.0	-40.0
卸売業	-33.3	0.0	0.0	0.0	-33.3	-33.3		-33.3	-33.3
小売業	-71.4	-28.6	57.1	-28.6	-71.4	-14.3		0.0	-85.7
サービス業	0.0		50.0	-16.7	-16.7	-33.3		0.0	-33.3
建設業	20.0		20.0	-20.0	-40.0	-20.0		-40.0	-20.0
運輸業	25.0		0.0	0.0	0.0	-25.0		0.0	0.0
その他	50.0		50.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-11.1	-20.0	33.3	-14.8	-33.3	-22.2		-11.1	-37.0
全体	-13.5	-2.9	30.8	-15.4	-32.7	-15.4	-16.0	-11.5	-38.5

図表2 【指標別DI値の推移】

	6年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年 1月	2月	3月	前月比
売上高	-1.9	-9.6	-26.9	-17.3	-5.8	-11.5	-15.4	-9.6	-19.2	-11.5	-21.2	-7.7	-13.5	-5.8
在庫数量	-8.6	-14.3	-2.9	-2.9	-5.7	-2.9	0.0	-2.9	-2.9	-5.7	-14.3	-2.9	-2.9	0.0
販売価格	25.0	19.2	17.3	28.8	25.0	21.2	26.9	17.3	26.9	15.4	19.2	17.3	30.8	13.5
取引条件	-5.8	-7.7	-11.5	-15.4	-9.6	-5.8	-13.5	-9.6	-5.8	-9.6	-11.5	-17.3	-15.4	1.9
収益状況	-28.8	-21.2	-40.4	-25.0	-21.2	-26.9	-19.2	-21.2	-36.5	-25.0	-26.9	-28.8	-32.7	-3.8
資金繰り	-7.7	-9.6	-15.4	-11.5	-11.5	-17.3	-19.2	-21.2	-25.0	-19.2	-11.5	-15.4	-15.4	0.0
設備操業度	-16.0	4.0	-8.0	-12.0	-8.0	-4.0	-16.0	-8.0	-20.0	-16.0	-4.0	-12.0	-16.0	-4.0
雇用人員	-11.5	0.0	-5.8	-9.6	-5.8	-3.8	-5.8	-7.7	-11.5	-9.6	-7.7	-1.9	-11.5	-9.6
業界の景況	-23.1	-23.1	-32.7	-32.7	-34.6	-26.9	-30.8	-28.8	-36.5	-36.5	-34.6	-42.3	-38.5	3.8

特記事項

情報連絡員報告（令和7年3月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 （産業分類細分類相当）	組合等及び組合員の業況等 （景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	このところの米及び野菜等の値上りにより価格に敏感になっている。菓子のよう な嗜好品は厳しい。
	めん類製造業	県内の人口減少率が大きな東西の県境地域で、売上や業績の低下に繋がっている。 県内でも中央を南北に繋がる大動脈地域は、何とか維持できているが、地域差が業績に大きな影響を与えている。又、県内観光地のお客様の動向としては、特にお土産品の売れ行きが悪い情報があった。消費傾向も、知り合いへのお土産品の購買はなく、あくまで自宅の分だけの購入で売上も伸びない。飲食に関しても、メニューの値上げで、来客も減っているとの事。そんな中、人材の募集及び採用も思うようではないので、地元の配送に関して、異業種の業者と協業し、物流の効率化、コストダウンをして結果を出している仲間がいた。ぜひ、仲間にその秘訣を伝えてほしいと思った。又、コスト面では、段ボールや包装資材の値上げの要請が来ていて、先の見通せない事に不安になっている情報があった。価格改定についても、一度に一斉の値上げでなく、少しの品目を少ない金額の価格設定で、認めてもらっている。
	酒類製造業	原料の価格高騰に伴う値上げを検討する組合員が始めている。この価格転嫁による売り上げの減少が懸念される。
繊維工業	縫製業	5月頃までは受注は継続商品を含め安定している。業界事だが、6～7月は端境期に入る。また、4月1日から物価が上がる。製造原価が上がるにもかかわらず、継続価格は据え置き状況が続いており苦しい状況は続いている。
	染色整理業	低下で安定している。電気料金の値上げ等が課題である。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	4月からの値上げの案内が多数届く。『こんなものまで値上げするのか?!』というのもあり、世の中の値上げの傾向に驚いている。繊維関係は為替が円高でも円安でも厳しい状況は変わらないが、関税の改定は新たに難しい状況を生む恐れがあるので、動向を注視したい。
木材・木製品	一般製材業	住宅用木材コスト高により値上げが見込まれる。また来月より建築基準法の4号特例縮小により今後の景況が悪化する可能性がある。
	家具・建具製造業	住宅着工戸数の落ち込みにより売上は減少。材料は不足及び高値で価格転嫁は進まず、雇用人員の確保も難しくなっている。賃上げ原資確保もままならなく景況は悪化している。
	木材・木製品製造業	住宅資材関連の売上高はあまり変わってないが、梱包向け資材の売上高が減少。住宅資材は4月以降建築の確認申請の緩和措置が見直されることから着工数の減少が見込まれるので、景況感はこちらに悪化する可能性もある。輸出関連の梱包向け資材はアメリカの関税の影響がどうなるのか全く分からないので仕入及び雇用に対して慎重に対応していく予定である。
	木材・木製品製造業	販売数量については流通部門では変わらず、製造部門では増加。仕入量については流通部門及び製造部門とも変わらず。販売及び仕入価格については、流通部門及び製造部門とも保ち合い。
印刷	印刷業	年度末は繁忙期だが、昨年度実績には及ばない。経費増分の価格転嫁や附帯需要の取り込み等で高付加価値化に取り組んでいる。
窯業・土石製品	石灰製造業	鉄鋼及び肥料関係向けは、昨年と同等であった。建材関係は、昨年に比べ増加した。全体では、昨年に比べ増加した。
	陶磁器・同関連製品製造業	3月後半より平日でも来客が多くなった気がする。製造業は陶器市が4月29日スタートのため、スロースタートのような気がする。組合員の売上は良いが、一般売上が伸び悩んでいる。ここの所インバウンドの来客が増えている。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	自動車部品もアメリカ関税の影響があるのか、減産傾向にあり減収である。年度末だが、物価の高騰及び金利上昇は経済悪化だと思う。賃上げや昇給など厳しい環境にある。鋼材関連は3月に入りさらに業況悪化にあり4月以降も話題に乏しい現状、金型は新規見積もりも激減で非常に厳しい。
	金属製品製造業	主な問題点は、仕入価格の上昇、人材不足及び人件費等経費の増加である。
一般機器	一般機械器具製造業	令和7年3月の報告は、前月と同様全般的に不変とする組合員企業が大多数を占めた。売上高減少と報告する企業も出ている。製品単価が上がらないという声も引き続き出ている。またエネルギー価格の影響、電気代の上昇との懸念報告も多くあり、経営状況に影響を懸念する企業もある。仕入れ資材についても相変わらず高止まりとの報告がある。賃金アップ等の対応並びに検討との報告も多数ある。米国トランプ大統領の関税対策発表を受け、今後の経営懸念を不安視する企業も出ている。あくまでも企業間格差がある。今後の受注減少を不安に持つ企業もあり中小企業経営者にとって厳しい日々が続いている。

	一般機械器具製造業	米国の相互関税により、特に組合員の海外生産拠点となっている中国（54%）、ベトナム（46%）、タイ（36%）が、極めて高い税率のため最悪の影響が懸念される。早急に戦略の見直しに迫られている。
	一般機械器具製造業	賃上げをさせる代わりに単価の見直しが行われている。しかし、実態は厳しい状況。トランプ関税が実行されればどうなるかは分からない。減産方向に向かうとかなり厳しくなるのではと想像している。
卸売業	各種商品卸売業	すべての項目で不変とする企業が多く、業況等は前年同時期に比べ微増とするも不変とする企業が多い。組合員企業の人材確保や定着率向上に向けた取り組み支援を組合で開始した。
	各種商品卸売業	業種及び取扱商品によって流通量の増減に差がある。燃料価格は、補助金が減額し、値上がりしており物価高騰と相まって、収益を圧迫している。輸入関連では円安の影響が出ていて、コストが増加している。従業員の人員確保が難しい。（募集をかけても集まりにくい。）賃金アップについても対応していくなかで原資の確保の他、労働時間問題についても検討していかなければならないため課題も多い。
小売業	食肉小売業	諸物価の値上りで、高額商品が低迷している。安価な商品の値上りの原因は円高で、輸入価格とデリバリーコストが上がっている関係だと思う。
	その他の小売業	販売価格が上昇しても、原価の上昇分よりも抑えた値上りのため、収益状況は徐々に悪化している。
	各種商品小売業	3月期の景況は、横ばいであった。人出はあったが、飲食店は原材料の高騰及び光熱費の高騰のダブルパンチで低迷の兆し。混迷する国際状況が噂され、一般小売業はその痛手で20%～35%の落ち込みだった。景気の回復として個人消費の拡大を期待したい。
	各種商品小売業	衣料関係テナントの大部分が前年を下回っており、物価高により食品や生活必需品以外への出費を抑えている傾向が顕著であった。賃金上昇により消費意欲が高まることを期待しているが、地方の零細企業にその波が来るのはまだまだ先であろうか。
サービス業	理容業	新年度になり、各支部でもまた脱退者が目立つようになってきた。やはり、高齢組合員が多く廃業はしないものの、今の組合に対して組合費を納め続けることに疑問や不安を感じているようだ。組合加入のメリットを伝えていかなければならない。
	自動車整備業	新加入組合員の売上増もあり、売上高は増加した。仕入価格の増加などから収益は上がらず。
	旅館・ホテル	3月の宿泊は1～2月より稼働率が上がってきた。宴会は営業再開後徐々に増えてきた。飲食店は、週末は戻ってきた感じがあるが、物価高による利用控えの影響が飲食店には出ているように感じる。原材料の高騰が与える影響は大きいです。
	ビルメンテナンス業	清掃関係のスポットの業務の受注が増えている。ごみ処理のスポット業務の受注がやや減少している。
	給食センター	お米の値段が倍の状況は変わらず依然として米不足が続いている。弁当の価格転嫁が値上げのスピードに全然追いついていない状況。産業お弁当の食数減少も続いており、多角的な事業への転換も含めて事業を再構築中である。
建設業	職別工事業	年度末にあたり、受注高は増加傾向を示したものの、引き続き材料費の値上げ等により収益面では悪化の傾向にある。労働者不足の状況は相変わらず続いている。
運輸業	貨物軽自動車運送業	年度末の影響か、個人消費関連の荷物配送は一時的に増えたが、工場製品の輸送は思ったほど増えず生産調整を実施している模様。依然としてコストの上昇が見込まれ利益を圧迫する環境が続いている。運転手の雇用不足については依然として改善できない。
	一般乗用旅客自動車運送業	年度末、異動に伴う送別会の時期ではあったがコロナ渦を境にいわゆる「飲み会」文化に変化があるように感じる。各〇〇ハラスメントと呼ばれる中、アルコールハラスメント、通称アルハラに対する意識もあるのか飲み会控えもあるのか。暮れの忘年会の文化は戻ってきたと感じていたが送別会は今一つのようなのだ。天候的には月初めに3回ほど降雪もあり多少の外出控えもあった。LRT運行時間中においてはメインの「鬼怒通り」沿いのタクシー利用者は間違いなく減少している。逆に駅東エリアでは飲食を中心に利用者の増加が感じられる。タクシー業界については、配車アプリTAXIGOの次にUberの稼働も始まり各タクシー会社中心の配車からこの2社へのアプリ配車への移行と変化しているようだ。それに伴い決済も現金からカード及び電子マネー等の割合が高くなっている。決済時期も含め各事業者も当然売上に対して現金収入減がある分若干資金繰りについて気を使う現況である。
その他の非製造業	大谷石採石業	大谷石の業況に特に変化はないが、季節的に観光客が増えている感はある。